

1943年10月16日。

それは、

永遠に語り継がれる、

特別な試合——。

ラストゲーム

最後の早慶戦



禁じられた野球にすべてを捧げた男たちの感動の実話

監督: 神山征二郎「大河の一滴」「ハチ公物語」 主題歌: 「旗」 鬼束ちひろ (ユニバーサル シグマ)

渡辺 大 柄本 佑 和田光司 脇崎智史 片山 享 中村俊太 / 柄本 明

宮川一朗太 三波豊和 原田佳奈 山本 圭 / 藤田まこと / 富司純子 石坂浩二

製作: 李 鳳宇 金田都雄 石井 晃 丹羽信一 喜多望 堀内 博之 フロデューズ: 奥山和由 企画: 鶴島高夫 プロデューサー: 室岡信明 ラインプロデューサー: 松田康史
脚本: 古田 求 撮影: 阪本善尚 (J.S.C) 照明: 大久保武 美術: 春木 章 録音: 武 進 編集: 蛭田 智子 音楽: 和田 薫 企画・制作・配給: シネカノン cine@uanon +P Line.

©2008「ラストゲーム 最後の早慶戦」製作委員会 (シネカノン/東急レクリエーション/シネマ・インヴェストメント/ADEX 日本経済広告社/Yahoo! JAPAN)

8月 Roadshow

www.lastgame-movie.jp

僕らは輝いた

走った、

打った、

あの日、この場所で――



65年の時を経て、今も語り継がれる伝説のゲーム そこには選手たちの熱き想いと、大人たちの切なる願いがあった――

青い空の下、グラウンドで無心に白球を追いかける若者たち。1943年、太平洋戦争が彼らから青春の日々を奪おうとしていた。「野球は敵国アメリカのスポーツだ」と六大学野球が廃止、さらに学生に対する徴兵の猶予が停止、彼らはバットを捨て、銃をとらねばならないのだ。

しかし、早稲田大学野球部顧問の飛田穂洲は、出陣のその日まで学生たちと野球を続けると誓う。野手の戸田順治は、厳格な父から「この非常時に」となじられたが、志願した兄の「戦争は俺に任せて、お前

は野球をやれ」という言葉を胸に練習に励む。「試合がしたい」選手たちの願いは、ただそれだけだった。

ある日、慶応義塾塾長の小泉信三が、飛田に「早慶戦」を申し込む。二度と帰れないかもしれない若者たちに生きた証を残してやりたい――小泉の切なる願いを飛田も喜んで受けとめるが、早稲田大学総長は頑として拒絶する。飛田の強行突破で、遂に幕を開ける早慶戦。それは、別れであると同時に、明日への希望に満ちたゲームだった……。

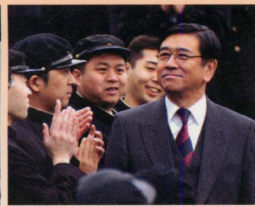
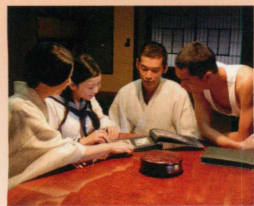
日本映画界の重鎮が、期待の若手と演技派を起用し、感動の実話を映画化!

時代は違っても野球、恋、友情と、今の我々と全く変わらない若者たち。野球をこよなく愛す戸田には、渡辺大。戸田の親友、黒川には、注目の若手ホープ、柄本佑。その他の野球部員役に甲子園出場経験などもある実力派が顔を並べ、迫真の試合シーンとなった。学生野球の父といわれる飛田には柄本明、教育者の誉れ高き塾長小泉信三には石坂浩二が扮し、困難な時代に信念を貫こうとする男たちを熱演した。

また、早稲田大学総長には藤田まこと、順治の父に山本圭、母に富司純子と、演技派の大ベテランたちが脇を固めた。監督は、『ハチ公物語』『大河の一滴』など、ヒューマニズム溢れる作品で知られる神山征二郎。

そして主題歌には鬼束ちひろが、一瞬を精一杯生きた者たちへの鎮魂歌というべき楽曲「蛍」を提供。

2008年8月、夢をあきらめない若者たちの、感動の実話を贈ります。



監督:神山征二郎『大河の一滴』『ハチ公物語』 主題歌:「蛍」鬼束ちひろ(ユニバーサル シグマ)

渡辺大 柄本佑 和田光司 脇崎智史 片山享 中村俊太 / 柄本明 | 宮川一朗太 三波豊和 山本圭 原田佳奈 / 藤田まこと / 富司純子 石坂浩二
製作:李鳳宇 会田郁雄 石井晃 丹羽信一 喜多瑩裕明 プロデュース:奥山和由 企画:鍋島壽夫 プロデューサー:室岡信明 ラインプロデューサー:松田康史 脚本:古田求 撮影:阪本善尚(J.S.C) 照明:大久保武 美術:専木章 録音:武進 編集:蛭田智子
音楽:和田薫 企画・制作・配給:シネカノン cine@uanon A-Line © 2008「ラストゲーム 最後の早慶戦」製作委員会(シネカノン/東急レクリエーション/シネマ・インヴェストメント/ADEX 日本経済広告社/Yahoo! JAPAN) 2008年/1:1.85/STD/1時間36分

www.lastgame-movie.jp

8月全国ロードショー!!

全国共通特別鑑賞券1,300円(税別) 5月1日(木)より発売!

劇場窓口にて
ボール型タオルプレゼント

※一部劇場を除く

